

# 今からまいて

## 夏休みに咲かせるアサガオ

浅山 英一

夏の朝早く起きてみると、大きなアサガオが美しい色とりどりに咲いているのに子供たちは驚きの目を見張ります。

テラスのプランターに植えたアサガオは軒下から張った紐を伝って急ピッチではいのぼり、毎日のように花を

咲かせます。

アサガオのたねをまくのはふつう五月のはじめですが、まいて一週間ほど経てば発芽して双葉をひらき、本葉が出はじめるとつるがのびて紐に巻きついでのびてゆきます。



さて、花のつぼみがつきはじめるのは七月になってからです。それまでの間、水や肥料をやっても花は咲かないのですが、やがて葉がついた一節ごとに咲きはじめるのです。たねをまいてから八〇日、二か月半はかかります。

庭が広ければ垣根やフェンスなどに自由に這わせてもよいし、大輪アサガオには花色も多く、毎朝、紅、青、紫、ピンク、白などの花が咲くように工夫すると夏休みの間充分にたのしめる花なのです。

### アサガオの花芽ができるわけ

ここでアサガオの花はどうしてできるかを学んでおきましょう。

アサガオはもともと熱帯の植物ですから、高い温度で発育します。ふつう、五月にまくのはそのためで、かりに三月や四月にまいても、温度が低ければ発芽しませぬ。平均二〇度になれば発芽するのですが、其後は夏の三〇度をこえるところに最大に育って花をつけるのです。

### 〈長日状態では花がでない〉

五月から六月末までの間は、毎日二時間ずつ日足が長くなってゆきます。本当は春の彼岸（春分の日）までは冬至から毎日日が短くなっていたわけですが、春分の日からは日一日と日が長くなってゆくのです。

アサガオは、かりに温度が高ければ発芽もするし発育もはじめるのですが、五月にたねをまいて育ちはじめても六月末の夏至までは毎日日が長くなってゆくので、かりに高温下にあっても花芽はできないのです。

つまり夏至までの長日状態（夏至の日照時間は十五時間、夜は九時間です）では花芽をつけないのです。

### 〈アサガオは短日植物〉

アサガオがつぼみつまり花芽をつくるには、毎日少しずつでも日照時間が短くなってゆく短日状態が必要なのです。ですからどんなにのびていても夏至が過ぎなければ花芽はできないのです。夏至をすぎて七月ともなり、毎日短日になりはじめると、つぼみは節ごとに発生して

七月の半ばすぎると、毎日夜を開くようになるのです。つまりアサガオは夏休みの子供たちのために咲く花だと言っても差し支えはないのです。

### 〈鉢植えは家にもってかえれ〉

どこの小学校でも毎年アサガオづくりをやりますが、せつかく五月にまいてだい分大きくなった鉢植えは、とても夏休みには水もやれないので、家へ持ち帰りなさいということがしばしば見られます。休暇となれば当番が出てきて水やりをするとはいうものの、たくさんの鉢植えの手入れは至難です。もちろん地植えにした場合はかりに水やりが不十分でも花は何とか咲きますが、それではみんなの勉強にはなりません。当番が花を見るだけでは困ったものです。

もちろん鉢植えを家に持ち帰った生徒たちは我が家で休暇中に花を見ることはできませんが、五月にまいてから九〇日も一〇〇日も経ってからのことです。

五月にたねをまいて自然に咲くのは七月八月というア

サガオは、最大限に育ってくれますから、花を見るためには最良の方法ですが、保育園、幼稚園、小学校はみな夏休みです。いかにアサガオがよく咲いても子供たちが留守では何のためにアサガオをまいたのか判りません。そこで、夏休みであろうとなかろうととにかく最短期間でアサガオを咲かせてみようかと挑戦してみましたのが当然です。

### 超特急で咲かせるチビ作りの方法

さきにアサガオはたねをまいてから花が咲くまでに八〇日かかると記しましたが、それを半分の日数四〇日で作かせるスピード開花法をここにお伝えします。

子供たちもきつと興味をもって毎日の世話をすることと思えます。

たねをまいて八〇日もかかれば真直にのびたアサガオは屋根までとどくほどにつるがのびますが、チビ作りの方法では四〇日かかるといっわけですからつるがのびるわけがありません。

こんなに小さなアサガオに  
こんなに大きな花が咲いたと  
大よろこび



チビ作りではわずか一〇―一五cmの高さで径一〇cmの花が咲くのです。しかも三本植えなら次々と三輪の花がたのしめます。

〈ダンボール箱をかける短日処理〉

リングやミカンなどの入った大型ダンボール箱を一個用意して、アサガオの鉢を五〜六鉢スッポリとかぶせるようにします。



- ① 毎日夕方五時になったら箱をかぶせて中を真っ暗にする。光が入らないように破れたところや隙間にはガムテープを貼りつけておく。
  - ② 夜はそのまま。もし雨がふりそうなら箱が濡れないようにビニールをかぶせて飛ばないようにしておく。
- アサガオは双葉がひらいたらその日からダンボール箱を次の約束通りにかぶせたり開けたりするのです。

③ 毎朝八時になったら箱を開けて鉢植えに日光があたりるようにする。

つまり夕方はまだ明るい頃ですが、五時から翌朝八時までダンボール箱をかぶせてやれば暗闇の時間は十五時間になります。朝八時に箱を開けて夕方また箱をかぶせるまで、日光にあたる時間は九時間となります。これは十二月の冬至の頃の日照時間にあたります。

アサガオは双葉を開いたばかりなのにこの冬の日照時間にさらされて、おどろいて早速に花芽をつくる準備にとりかかるとのことです。

さてもう一つ約束があります。

ダンボールの短日処理をはじめたら、一週間は毎日確実に時刻を守って下さい。一日か二日やってみて途中で忘れたり、処理をやらなかったりするとアサガオの花がイビツになったり、所定の四〇日で咲かなかったりしてしまいます。

花が咲くまで四〇日と言いましたが、この短日処理は毎日つづけることが必要です。もし途中で二、三日休ん

だり、あるいは一〇日も留守にしたりすると折角早く花を咲かそうとしているアサガオが、途中で休んでしまえば約束の四〇日では咲かず、それ以上の日数がかかることになってしまいます。

へいよいよつぼみが見える

短日処理を二週間もつづけるうちに双葉の間から本葉が出て、それが大体三枚出た頃に第三の本葉のつけもとに花の蕾がついていることに気がつきます。本葉自身も次第に大きくなり、その腋についたつぼみも次第に大きく育ってゆき、やがて四〇日近くなるころに明日は花が開くという状態になります。

へいよいよ開花

本葉三枚目についたつぼみは、大きくなってある朝、おどろくなかれ花径一〇cmほどの美しいアサガオの花が開きます。その草丈はほぼ一〇cm、一鉢に三本植えとしたのですから三輪揃って咲けばしめたものですが、三本

のうち一輪とか二輪は咲いても三本揃って三輪の花が咲くことはあまりありません。そのために三本植えとしたのですから、毎日一輪ずつ咲いてもずい分たのしみです。



◀まきっぱなしでも短日処理すれば、40日で花が咲く

〈咲かせたい日を逆算してたねをまく〉

七月のはじめにたねをまけば三、四日で双葉がひらきますから、それから四〇日後に咲くとすれば八月の中旬に花が見られます。したがって八月でも九月でも咲かせたい日から四五日前にたねをまいてチビ作りをはじめることになります。

育てかたのポイント

〈鉢と用土〉

鉢 アサガオのたねをまく鉢はどこにでもあるプラスチック製の五号鉢をつかいます。

五号鉢は径一五cmですが、そのあたりにあれば素焼鉢でもかまいません。

プラスチック製鉢は底に水はけの穴があいていますから、ここへ鉢のかけらを一並べ敷いて水はけをよくしてやりませう。鉢の側面からは空気も入らず水も出ないので底孔に排水と通気をたよるより外にありません。

用土 アサガオは水はけのよい土でよく育つのですか

ら、用土は赤玉土と腐葉土を半々にまぜてつくりませう。

赤玉土といっても特別のものでなく、いわゆる赤土を二mm目の篩で細かいミシンをふるい棄てたものでよく、腐葉土はどこかはきだめでシイやカシ、ツバキ、ケヤキなどの葉が、一、二年も経ってポロポロに腐ったものを使います。木の葉の原形がそのまま残っているものや腐りすぎて細かい灰のようになってしまったものではないけません。一cmぐらいの腐った木の葉ならよいのですが、スギやマツの葉は根がのびることに有害ですからまぜないようしてください。

鉢の底には一並べほど鉢片をしいて水はけをよくし、その上に調合した土をみたくします。

〈たねまき〉

アサガオのたねは他の草花に比べて大きいので子供たちにもまきやすいものです。五号鉢に三粒のたねをまきますが、これは一鉢に三本育てば何とか形がつくからです。

ところがアサガオはまいても芽の出ない堅だねがあり  
ますから、前以て数粒のたねを二晩水に浸しておいて吸  
水してふくれたたねをまくようにします。吸水しないで  
膨らまないたねはいつまで経っても芽が出ません。この  
水を吸わない堅だねはつるで熟しすぎたためです。堅だ

2日晩水につけたたね



ねを発芽させるには種皮をヤスリかナイフで削ってから  
まくようにします。

たねは人さし指の第一節までの深さに穴をあけ、ふく  
らんだたねを入れたら、砂をかけて水をやります。発芽  
が心配でしたら五個まいておき、発芽してから子葉がよ  
くひろがったものを三本残すようにするとよろしい。

#### アサガオ豆知識

アサガオの仲間 アサガオはヒルガオ科の一年草で  
す。世界中にヒルガオ科の植物はザッと一〇〇〇種類も  
あり、サツマイモやルコウソウ、ヨルガオ、ヒルガオな  
どと同じ仲間です。

日本アサガオ 西洋アサガオに対して昔から日本でつ  
くられてきたアサガオを日本アサガオといいますが、改  
良種も多く花色は豊富、花の大きさ、性質などいろいろ  
とちがいます。今、どこでもつくられる系統は大輪アサ  
ガオで花径二〇cmのものが多く、一葉の腋に一輪咲く  
のが特徴です。



西洋アサガオ 外国で栽培されてきたアサガオを指しますが、これにもたくさん種類があります。代表的なのはヘブンリーブルーというソライロアサガオで、花は美しい青（白や絞りもある）色で八月末から霜のくる日まで一葉腋に十数輪のたくさんの花をつけて見事です。

花の色素はアントキアン色素 アサガオにはたくさん色がありますが、花びらを白紙になすりつけてその上から石鹼をぬると赤い花は紫に、紫色の花は青に、青い花は藍色に変わります。アントキアン色素の特性です。

つるを垂直にのぼすと 軒先から紐を垂直につるしてアサガオのつるをのぼらせるとたやすく花が咲きませんが、アンドン仕立のようにつるをやや水平にらせん状に巻いてやると、早くつぼみがつき花がたくさん見られます。

丸だねは大輪に咲く アサガオは一つの果実に五個のたねができるのでふつうは一個がスイカを五つに切った形をしています。大輪アサガオは三―四個のたねがでるので丸くてコロコロした形をしています。たくさん

のたねの中から丸だねを選んでまけば、大輪に咲く確率が大きいのです。

（園芸研究家）